

## 愛知県知多半島とその周辺の ヒシ属の果実形態について(その2)

中井 三従美

会報31号で、愛知県知多半島とその周辺のヒシ属の果実形態について報告したが、その後さらに各地でヒシ属果実を採集した。採集地とタイプを分類したので報告する。

・ヒシ属果実の採集地

- No55 白紗池 大府市長草町
- 56 長草大池 " "
- 57 森岡大池 東浦町森岡
- 58 ヤカン池 東海市荒尾
- 59 新池 " 名和
- 60 ダブガ池 阿久比町矢高
- 61 北田池 知多市大草
- 62 親池 " 南粕谷
- 63 枳池 常滑市金山字北キロ51
- 64 弁天池 愛知郡日進町岩崎
- 65 岩ヶ池 刈谷市東境町
- 66 沼田池 " 井ヶ谷
- 67 草野池 " "
- 68 細口池 名古屋市天白区平針

以上、知多半島9ヶ所、半島以外5ヶ所である。

・タイプと分類 (表-1)

タイプ別に分類したヒシ属は変異が著しくNタイプについては、東浦町No.57でわずかにみられ、また東海市No.59では多数みられ両池とも混生池であった。頂冠と果実底面の形状は特異な形態(Nタイプ)を示し、上刺の角度、前後の突起はA、Eタイプを示しているものも多くみられた。これは、単生池より混生池の方が果実の形に変異が多く雑種となっていると思う。

四刺性大形(オニビシ)、四刺性小形(ヒメビシ)の分布は、現在、知多半島では確認できず、半島周辺の限られた場所に生育する。これはヒシ属果実は、成熟すると同時にその場所に沈下し、同一水系以外の分布は辛うじて哺乳動物または水鳥を介しているので分布圏を広げるとは困難であることによると思われる。

参考文献

- 坂口清一, 1982. 香川県のヒシ属の調査報告第一報. 香川生物(10) 13-17.
- 益富寿之助, 1955. 生ける化石植物. 日本地学研究会 p83-87.

訂正とお詫び

会報31号において(愛知県知多半島とその周辺のヒシ属の果実形態について)報告したが、ヒシ属果実の採集地、No.51、名古屋城堀とヒシ属果実の変異例(図3) Hタイプ、No.51とした。しかし、各地で採集された果実のタイプ(表-1)を作成する上で誤って池No.51にGタイプと記載した。ここに謹んでHタイプに訂正します。

表-1 各池で採集された果実のタイプ

タイプ 池 No.	二 刺 性					四 刺 性				
	中 形 ヒ シ					大 ト ウ ビ シ	小 ヒ メ ビ シ	中 オ ニ ビ シ	大 オ ニ ビ シ	
	A-D	E, F	G	H	N	I	J	L, M	K	
55	○	○	○							
56	○									
57	○	○		○	○					
58	○									
59	○				○					
60	○									
61	○									
62	○		○							
63	○	○								
64	○									
65	○	○	○	○						
66	○									
67	○	○	○						○	
68	○									